

# 読者ニュース

2014年7月13日(日)1046号

発行 日本共産党清水町支部  
連絡先 森野善広 伏見 442-3 電 976-2747  
吉川清里 徳倉 440-6 電 931-1662  
Eメール morino618@thn.ne.jp

## 清中で理科の授業が困難に 保体の先生などが教える

今清中では、理科の授業が困難に陥っています。最近理科を担当していた68歳の臨時講師が家庭の都合でやめることになりました。代替りの教師を見つける前にやめたために2年生の理科の授業がまったく出来なくなりました。7月にはいつてからは保健体育の先生などが代わりに授業を行っています。本来なら、授業は免許のある教科しか出来ないのですが、免許外の科目を行う旨の申請を県教育委員会に出し行っています。行政に確認したところ、改善はなかなか難しそうが目途が立っていません。最近県内で、免許以外の教科を教えたとして、処分を受けた学校がいくつかありましたが、この許可制度は、足りない教師の抜け穴で本来の免許制度ではありえないと思います。

静岡県は35人学級を行っていますが、教師の人数は40人学級のままでやっています。35人学級にすればクラスは増えますから、当然、教師も増やさなければいけません。しかし、同じ人数で行っているために、教師の担当時間数が目いっぱいになり、臨時講師も多用しなければいけなくなるのです。子供の能力は教師によって大きく変わります。そのための教師は教育を受け、そして免許も持っているのです。誰でもいいというわけではありません。今の清中の現状を一日も早く改善すると同時に、「成績の悪い学校は発表する」などとたわごとをいうより県は、正規の教師の数を増やすことを行うべきなのです。

## 柿田橋上流の中洲 以前よりも大きくなった？



「朝もやにけむる柿田川」（柿田橋より）

柿田橋上流には中洲が以前からありました。そこには倒木が沈んでいて、砂や泥などがたまりそこに雑草などが生えて中洲になっていたものです。今年の3月、国土交通省は柿田川自然再生計画に基づいて、川の流れを阻害している堆積土砂の除去を行い、本来の河道を再生する事業を行いました。この部分の土砂などを除去する工事をクレーン車なども投入して行いました。しかしそのときには、沈んでいる倒木の処理は行いませんでした。

写真は最近撮ったものですが点線部分が中洲のようになっていました。以前より改善されているとはいいがたく、「今までより大きいのではないか」という人もいます。

依然から議員の有志は、沈んでいる倒木の処理を早急に行うべきだと主張し、沼津事務所にも何度も申し入れに行きました。せっかく税金を投入して行った事業ですが、効果があったのかどうか、早く検証をすべきです。